

逆に会議出張などでの時間の浪費のみが目立って来ました。時の流れは構成員の顔ぶれを変えるばかりでなく、その意識まで変えます。とくに大学紛争後の広大の改革の大きなねりの一環としての西条キャンパスへの統合移転については、既に過去のこととして、今日では話題にもならない従来のいきさつは、遂に顔を出すことなく、スムーズに今日の移転を迎えたと言ってよいでしょう。

かつては広島大学の中に幾つもあった分校という組織も、三原分校の東雲分校への合併や教養部の成立、そして東雲分校の学校教育学部としての独立などで、昭和53年以降福山

分校が唯一の分校として広島大学の中に存在していました。それが今度廃止にならたのです。分校というのは誠に中途半端な組織であるにもかかわらず、広島大学においては学内の管理運営に、分校を部局に準ずる扱いをして下さったことは、非常に有難いことでした。最後に、これまで学内諸部局から福山分校に対して寄せられた御厚意に重ねて謝意を表するとともに、福山分校の移転に際して一致協力してこれに当たり、予定どおり無事故で成し遂げて下さった前福山分校教職員諸氏に心からのお札を述べさせていただいて擱筆します。

サークル紹介

広島大学体育会空手部

文学部学生 永江真彦



我が広島大学体育会空手部は、今年度で創立34年目を迎える。現在、部員数は17名で、幹部、準幹部の先輩を中心に練習に励んでいる。空手には、糸東流、和道会流、剛柔流、松濤館流、等多数あり、我が部にもいろいろな流派の人間が集まっているが、広大空手部は設立以来、和道会流である。

練習は体育館の1Fにおいて、合気道部、剣道部、柔道部等、主に武道系の部と仲良く場所

を分けあい、月～土曜日の間、二時間集中して行う。どちらかと言えば組手中心の練習だが、ただ、型はすべての基本があるので、師範、監督、OB先輩から、丁重な指導を受けている。

戦績として、過去西日本空手道団体戦で優勝し、昨年度は女子学生日本一を輩出しているのだが、今年は今一歩で敗退しているのでさらに奮起し、部員全員で古豪復活を目指そうと意気込んでいる。今後の空手部に期待してほしい。

さて、体育会と言えば、イコール飲酒、というイメージがあろうが、我が部は先輩全員が飲酒について良心的な理解を示しており、無理に酒を勧めることもせず、泥酔して救急車を呼んだり、正門入って左側にある噴水場で「バサロやります」等といって泳いだりするようなことは全くありえない。(この段落においての文責は負わない。)

また、余談ではあるが、広天空手部はいい男揃いであることを付記しておく。